

1 事業名

平成30年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア・秋～

2 趣旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 平成30年9月8日（土）～9日（日）

4 参加者 27名（高校生2名，大学生25名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内 容

(1) 日程

日時	9:00		9:15	9:30	10:00	11:45	13:00	13:30	14:00	15:00	17:30	18:30	20:00	21:00	21:30	22:00	22:30	
9月8日(土)		参加者受付	開会行事	講義「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての打合せ	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 仲良しだよ秋 (アイスブレイク)	活動2 おいしいよ秋 (野外炊事)	夕食	活動3 すてきだよ秋 (ナイトハイク)	入浴	就寝指導	ふりかえり	就寝準備	就寝	
日時	6:30	7:00	7:30	8:45	9:30	12:00	13:00	14:00	14:30	15:30	16:00							
9月9日(日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・準備	退所点検	活動4 元気だよ秋 (運動会)	昼食	アンケート記入	おわりの会	小学生解散	講義「活動支援と児童理解」	閉会行事	参加者解散	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 太線でかこまれている部分は小学生との活動です。 </div>				

(2) ・指導者

国立岩手山青少年交流の家

副主任企画指導専門職

工 藤 祐 幸

企画指導専門職

松 本 博 路

事業推進係

山 崎 啓 陽

・指導補助

法人ボランティア

11名

(3) 企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークちゃれんじくらぶ・秋」の企画・運営体制を構築した。

その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの3名を統括リーダーとして配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供たちに近い立場で関わる体験ができるように企画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

小学生を迎え入れることに備えて、1日目の午前中にセミナー参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。「事業運営並びに活動支援についての心構え」では、セミナー参加者がボランティア活動に必要な基本的スキルについて、岩手山が独自で作成したボランティアの手引きを活用して講義を行った。さらに、活動内容の打合せにおいて、法人ボランティアが作成した活動計画書を基にして具体的な場面を想定した留意点等を共通理解することで、支援の仕方についての具体的なイメージをもてるように工夫した。

また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。さらに、事業の企画運営についての事前説明及び実際の運営を法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。具体的には、法人ボランティア3名が統括リーダーとなり、テンパークちゃれんじくらぶ参加児童の健康調査票を基に、セミナー参加者と一緒に児童の健康面や心理面、保護者からの特記事項等を把握することで児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した児童が楽しく安全に過ごすことができるように、各班にセミナー参加者を2～3名ずつグループリーダーとして配置し、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにした。(補足資料1を参照)

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めは不安もあったが、グループリーダーとして子供と深く関わり、真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。事業の目的どおりの成長が得られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。「講義(個人目標の設定)ー実践ー振り返りー実践ー演習」をサイクルとした2日間をとおして、「子供たちの楽しそうで、いきいきとした様子を見て、子供たちがもっと楽しめるように頑張ろうと張り切って活動するようになった。」という声も聞かれ、参加者自身が自分の変容を認識することができ、次の活動への意欲付けになった。また、子供と関わる体験は、法人ボランティアとして他の事業に参加するきっかけになると考えられる。体験活動支援セミナーを入口とした、法人ボランティアの拡充も大いに期待できると思われる。

9 今後の課題

体験活動支援セミナー参加者が、活動の見通しを持てるように、事前に「運営補助と活動支援

の概要」を配付した。また、グループリーダーとして子供と関わる中で、体験活動の支援に必要なスキルを高めていくことができるように、法人ボランティアによる具体的な活動支援の方法や実演、進行場面での補足説明などを行った。実際の活動では、子供たちへの説明と分けてグループリーダーへの指示や補足説明を行ったことで意識して活動支援に取り組んでいた。今後は、年度初めに行ったボランティア養成講座「How To ボランティア」から時間を経過していることを考え、研修内容を振り返られるように活動内容をプレゼンテーションにまとめて提示し、スムーズに活動支援に取り組めるように工夫する必要がある。



法人ボランティアによる企画説明



子供との出会い（アイスブレイク）



ディナーチャレんじ
（野外炊事）

【補足資料】 テンパークチャレんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

